

川端経営労務事務所 社会保険労務士 川端 努

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目7番6号 みのるビル5階

TEL 06-6945-5518 / FAX 06-6945-5087

URL <http://www.roumu-support.com>

E-mail [t-kawabata@roumu-support.com](mailto:t-kawabata@roumu-support.com)



## 外国人従業員の採用予定、「なし」が大勢！？～大阪商工会議所調査

### ◆浸透には時間がかかるか

大阪商工会議所が実施した調査では、70.3%の企業で、外国人従業員を「現在雇用しておらず、今後も採用予定はない」とのことです。また、「今後、外国人従業員の採用予定がある」（「現在雇用しており、今後も採用を続ける予定」「現在は雇用していないが、今後採用する予定」の合計）との回答が24.7%、「現在雇用している」という企業でも、28.6%が「今後採用の予定はない」と回答している状況を見ると、政府が盛んにすすめる外国人雇用ですが、まだまだ浸透には時間がかかりそうです。

### ◆製造業・非製造業での差異

本調査の対象は、大阪商工会議所会員の中堅～小規模企業(2,865社、回答231社)です。

「採用予定なし」(現在も、今後も)とした回答の内訳を見てみると、資本金5,000万円以下の企業で70%を超え、5,000万円超～3億円以下の企業で59.3%、3億円超の企業でも50%となっています。回答内容を製造業・非製造業別にみると、外国人従業員の雇用予定については、いずれも同様の傾向にあり、7割前後の企業が採用予定なしと回答しています。一方、採用に前向きな企業は、「日本語での意思疎通が問題なく行え(日本語能力試験2級)、日本人同様の業務を行える人材」を希望する層が多く、非製造業ではより高度な日本語能力を希望しています。

### ◆外国人雇用の課題

外国人従業員の雇用にあたっての課題として

は、「言語・文化・風習・宗教などの問題」を挙げる企業が製造業・非製造業とも多く、次いで、製造業では「指導を担当できる人材がいらない」、非製造業では「そもそも外国人を採用してまでの業務がない」を挙げる企業が多くなっています。

もちろん、地域や業種の特徴により差異はあるとは思われます。しかし、通説的に、オリンピック終了後は、開催国の景気が冷え込むといわれているとされており、経済情勢も世界的に不透明になりつつありますので、採用に関する判断は慎重に行いたいものです。

## ご存じですか？「シャドーIT」による情報トラブル発生リスク

### ◆「シャドーIT」とは？

便利なITツールが次々に登場する中、会社が把握しないところで従業員が業務上使用することがあります。例えば、社外の人とのやり取りでグループチャットを利用する、データのやり取りにオンラインストレージサービスを利用する、業務データを個人のスマートフォンで扱う、持帰り残業のためにUSBに保存したデータを持ち帰る、等です。こうした、社内で使用が許可されていない外部サービスや個人所有の端末を業務で無断使用することをシャドーITといい、情報流出等のおそれがあるとして問題になっています。

### ◆「バイトテロ問題」とは異なる対策が必要

アルバイト店員等によるSNSへの不適切投稿が「バイトテロ」問題として話題になり、今では従業員がインターネットやSNSの利用に際して不適切な行為をしないよう指導する等、対策を講じる企業が増えています。しかし、シャドーITによる

リスクは、業務効率を良くするために利便性の高いサービスを利用する等によって起こり得るため、そもそもバイテロ問題とは本質的に異なるもので、従業員の利用を禁止する等だけでは問題を解決することはできません。

#### ◆まずは利用状況を調査してから対策を講じる

シャドーITリスクへの対応としては、まず従業員がどんなサービスや端末を利用しているかを調査し、自社の業務に必要なITツールを洗い出すところから始めます。そして、業務上必要と考えられるサービス等について、会社がセキュリティ上の要件をクリアしているか等を確認の上、利用を認めるサービスを特定する等して必要なIT環境を整備し、それ以外は利用させないようにします。

こうした対策は、時間もかかり費用負担も発生する可能性があります。利用状況を会社が把握・監視できるようにするためにも必要です。

#### ◆働き方の多様化・生産性向上を実現するためにも対策が不可欠

働き方の多様化でオフィス以外の場所で就業したり、生産性をアップさせるためにIT化を進めたりする機会が増えています。こうした取組みは、従業員の働きやすさにもつながる一方、新たな情報トラブルにつながるリスクもはらんでいます。

「働き方改革」に取り組む際は、シャドーITリスク問題の有無にも注意が必要と言えるでしょう。

#### AIアプリで文字起こし業務が素早く簡単に

##### ◆AIを利用した身近な業務改善

「AI？うちはアナログだから関係ないよ」という方も少なくないかもしれません。しかし、「棚卸しするとき、長い商品名をパソコンに手入力している」「古い紙資料をデータ化するために手入力している」という状況は、身近に存在するのではないのでしょうか。そんなとき、AIを使った無料で使えるアプリを試してみても良いかもしれません。それは、LINE アプリ「文字起こし ぱりぐっどくん」。長崎県西海市の地域商社、株式会社西海クリエイティブカンパニーが開発したもので、AIによる画像処理を利用して、画像から自動で文字起こしができ

ます。具体的には、紙に書かれた文字をスマートフォンのカメラで撮って画像にし、その画像を「ぱりぐっどくん」のLINE アカウントに送信します。すると、約3秒でその画像の文字がデータとなって返信されるというものです。

##### ◆活用事例

画像から文字起こしができると、何が便利なのでしょう。例えば、ある薬局では棚卸しの際に、長い薬品名をいちいち手打ちしてリストを作成していました。「ぱりぐっどくん」を使えば、画像にして送信するだけで、あっという間にリスト用の文字データが届きます。また、FAXで送られてきた資料をデータ化したいとき、FAX紙面を画像にして送信すれば、文字データにすることができます。このほか、紙に書かれた長めのHPアドレスにアクセスしたい、貰った名刺のメールアドレスにすぐ送りたい、客先からの提出物が紙やPDFでデータ入力が大変、というときにも利用できそうです。

##### ◆利用の仕方

LINE アプリをダウンロードし、「文字起こしぱりぐっどくん」を友達追加します（ネット検索するとQRコードがあります）。「文字起こしぱりぐっどくん」のトーク画面から写真を撮り送信すると、返事として画像内の文字データが届きます。届いた文字データをコピーすれば、自由に編集できます。

##### ◆利用上の留意点

気になるのがセキュリティですが、個人情報保護の観点から画像データは提供会社でも確認できない仕組みになるということです。とはいえ、複数の事業者が提供するサービスとの連携プロジェクトのため、機密情報は利用を避けた方が無難かもしれません。また、利用に際しては情報元の著作権にも十分留意する必要があります。

##### 当事務所よりひと言

LINE アプリ「文字起こしぱりぐっどくん」を実際に試してみました。なかなか便利でした。どんな仕事でも業務改善はできると思いますので、当たり前に行っている仕事も常に改善の視点を持って見直していきたいものです。